2013 岡山大学 (理系)

 $\boxed{\mathbf{1}}$ 曲線 $y=\left|x-\frac{1}{x}\right|$ (x>0) と直線 y=2 で囲まれた領域の面積 S 求めよ.

2

行列 $A=\begin{pmatrix} a & -b \\ b & a \end{pmatrix}$ で定まる座標平面上の 1 次変換を f とする. ただし,a,b は実数とする. このとき,以下の問いに答えよ.

- (1) 原点 O とは異なる点 P(x, y) を f で移した点を Q とする. このとき,長さの比 $\frac{OQ}{OP}$ は P によらないことを示し,その値を a,b を用いて表せ.
- (2) 正の整数 n に対して, $A^n = \begin{pmatrix} p_n & q_n \\ r_n & s_n \end{pmatrix}$ とするとき

$$p_n^2 + r_n^2 = \left(a^2 + b^2\right)^n$$
, $q_n^2 + s_n^2 = \left(a^2 + b^2\right)^n$

が成り立つことを示せ.

(3) $109^2 = l^2 + m^2$ を満たす正の整数 l, m を一組求めよ.

2013 岡山大学 (理系)

3

xy 平面上の 2 点 $P_1(x_1, y_1)$, $P_2(x_2, y_2)$ に対して、 $d\Big(P_1, P_2\Big)$ を

$$d(P_1, P_2) = |x_1 - x_2| + |y_1 - y_2|$$

で定義する. いま, 点 A(3, 0) と 点 B(-3, 0) に対して

$$d(Q, A) = 2d(Q, B)$$

を満たす点 Q からなる関数を T とする. このとき,以下の問いに答えよ.

- (1) 点(a, b) が T 上にあれば、点(a, -b) も T 上にあることを示せ.
- (2) T で囲まれる領域の面積を求めよ.
- (3) 点 C の座標を (13, 8) とする. 点 D が T 上を動くとき, d(D, C) の最小値を求めよ.

4

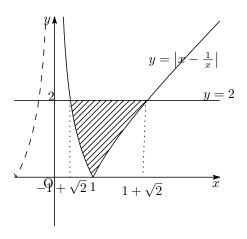
xy 平面において、点 (1, 2) を通る傾き t の直線を l とする. l に垂直で原点 O をと通る直線と l との交点を P とする. このとき、以下の問いに答えよ.

- (1) 点 P の座標を t を用いて表せ.
- (2) 点 P の軌跡が 2 次曲線 $2x^2 ax = 0$ と 3 点のみ共有するような a の値を求めよ. また,そのとき 3 つの共有点の座標を求めよ. ただし $a \neq 0$ とする.

2013 岡大理系

--解答例--

$$y=\left|x-rac{1}{x}
ight|$$
 において, $y=x-rac{1}{x}$ から, $y'=1+rac{1}{x^2}>0$ また, $\lim_{x o+0}y=-\infty$ などから y 軸を漸近線として単調増加関数.また, $\lim_{x o\infty}\left(x-rac{1}{x}
ight)=+\infty$ であるから $y=\left|x-rac{1}{x}
ight|$ $(x>0)$ のグラフと直線 $y=2$ をかくと



図の斜線部分の面積を求めて

$$\therefore S = \int_{-1+\sqrt{2}}^{1} \left\{ 2 - \left(-x + \frac{1}{x} \right) \right\} dx + \int_{1}^{1+\sqrt{2}} \left\{ 2 - \left(x - \frac{1}{x} \right) \right\} dx$$

$$= \left[2x + \frac{x^{2}}{2} - \log|x| \right]_{\sqrt{2}-1}^{1} + \left[2x - \frac{x^{2}}{2} + \log|x| \right]_{1}^{\sqrt{2}+1}$$

$$= 2 + \frac{1}{2} - \left(2(\sqrt{2} - 1) + \frac{(\sqrt{2} - 1)^{2}}{2} - \log(\sqrt{2} - 1) \right)$$

$$+ 2(\sqrt{2} + 1) - \frac{(\sqrt{2} + 1)^{2}}{2} + \log(\sqrt{2} + 1) - \left(2 - \frac{1}{2} \right)$$

$$= 1 + 4 - 3 + \log 1 = \mathbf{2} \cdots (\mathbf{\mathring{E}})$$

2013 岡大理系

—解答例—

(1)

$$A = \begin{pmatrix} a & -b \\ b & a \end{pmatrix} = \sqrt{a^2 + b^2} \begin{pmatrix} \frac{a}{\sqrt{a^2 + b^2}} & -\frac{b}{\sqrt{a^2 + b^2}} \\ \frac{b}{\sqrt{a^2 + b^2}} & \frac{a}{\sqrt{a^2 + b^2}} \end{pmatrix} = \sqrt{a^2 + b^2} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix} \cos \theta = \frac{a}{\sqrt{a^2 + b^2}}, & \sin \theta = \frac{b}{\sqrt{a^2 + b^2}} \end{pmatrix} \quad \text{とおける}$$
したがって f は原点の周りに θ だけの回転と、 $\sqrt{a^2 + b^2}$ 倍の合成である.
$$\therefore \frac{OQ}{OP} = \sqrt{a^2 + b^2} \cdots ($$
答)

(2)
$$A^n = (\sqrt{a^2 + b^2})^n \begin{pmatrix} \cos n\theta & -\sin n\theta \\ \sin n\theta & \cos n\theta \end{pmatrix}$$
 より,
$$p_n = (\sqrt{a^2 + b^2})^n \cos n\theta, \quad q_n = (\sqrt{a^2 + b^2})^n \sin n\theta$$

$$r_n = -(\sqrt{a^2 + b^2})^n \sin n\theta, \quad s_n = (\sqrt{a^2 + b^2})^n \cos n\theta$$
であるから
$$p_n^2 + r_n^2 = (\sqrt{a^2 + b^2})^n)^2 \cos^2 n\theta + (\sqrt{a^2 + b^2})^n)^2 \sin^2 n\theta = (a^2 + b^2)^n$$

$$p_n^2 + r_n^2 = (\sqrt{a^2 + b^2})^n (2\cos^2 n\theta + (\sqrt{a^2 + b^2})^n)^2 \sin^2 n\theta = (a^2 + b^2)^n$$

$$q_n^2 + s_n^2 = (\sqrt{a^2 + b^2})^n (2\sin^2 n\theta + (\sqrt{a^2 + b^2})^n)^2 \cos^2 n\theta = (a^2 + b^2)^n \cdots (x)$$

$$A^2=inom{a-b}{b-a}inom{a-b}{b-a}=inom{a^2-b^2-2ab}{2ab-a^2-b^2}$$
 であるから $p_2=a^2-b^2,\quad r_2=2ab$ $109^2=l^2+m^2$ において、 $109=100+9=10^2+3^2$ となることから $a=10,\quad b=3$ なる a,b に対して、 $l=10^2-3^2=91,\ m=2\cdot 10\cdot 3=60$ なる l,m が対応する。

$$(l, m) = (91, 60) \cdots (答)$$

2013 岡大理系

—解答例—

(1)
$$d(Q, A) = 2d(Q, B) \sharp \emptyset$$
$$|x - 3| + |y| = 2(|x + 3| + |y|) \quad \sharp \emptyset$$
$$\therefore |y| = |x - 3| - 2|x + 3| \quad \text{である} \cdots \oplus \{a, b\} \rightarrow (a, -b) \quad \text{とおいて, ①は成り立つ.}$$
$$\\ \\ \sharp \neg \tau (a, -b) \notin T \, \bot \text{にある} \cdots (終)$$

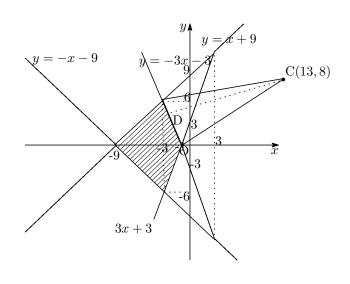
(2)

(1) により、<math>T は x 軸に対称な図形である $y \ge 0 \text{ のとき}, \ y = |x-3|-2|x+3| \text{ において}$ $\begin{cases} \text{ (i) } x \le -3 \text{ のとき} & y = x+9 \\ \text{ (ii) } -3 < x \le 3 \text{ のとき} & y = -3x-3 \\ \text{ (iii) } 3 < x \text{ のとき} & y = -x-9 \\ \text{などにより} \end{cases}$

求める図形は図の斜線部分である.

よって, 求める面積は

$$\frac{1}{2} \cdot 8 \cdot 12 = \mathbf{48} \cdots (\mathbf{\mathring{S}})$$



(3) d(D, C) = l とおく、l を最小にする点 D は線分 y=-3x-3 ($-3 \le x \le -1$) 上にある、l=|13-x|+|8-(-3x-3)|=|3x+11|+|x-13| $-3 \le x \le -1$ より,l=3x+11-x+13=2x+24

 $-3 \le x \le -1$ において, l は増加関数であることから, x = -3 で最小となる.

最小値は $2 \cdot (-3) + 24 = 18 \cdots$ (答)

2013 岡大理系

—解答例—

(1)
$$l$$
 の式は、 $y=t(x-1)+2$ であり、 l に垂直で原点を通る直線の式は $x+ty=0$ この 2 つを連立させて、 $y=t(-ty-1)+2$ から、 $(t^2+1)y=-t+2$ より、 $y=\frac{-(t-2)}{t^2+1}$ ($::t^2+1>0$) このとき、 $x=-ty=\frac{t(t-2)}{t^2+1}$ である。よって点 P の座標は

$$P\left(\frac{t(t-2)}{t^2+1}, \frac{-(t-2)}{t^2+1}\right)\cdots$$
(答)

(2)
$$x = \frac{t(t-2)}{t^2+1}$$
, $y = \frac{-(t-2)}{t^2+1}$ より t を消去して

$$x^{2} + y^{2} = \frac{t^{2}(t-2)^{2}}{(t^{2}+1)^{2}} + \frac{(t-2)^{2}}{(t^{2}+1)^{2}} = \frac{(t^{2}+1)(t-2)^{2}}{(t^{2}+1)^{2}}$$

$$= \frac{(t-2)^{2}}{(t^{2}+1)} = \frac{t(t-2)-2(t-2)}{(t^{2}+1)} = \frac{t(t-2)}{t^{2}+1} + \frac{-2(t-2)}{t^{2}+1}$$

$$= x + 2y \quad \therefore x^{2} + y^{2} = x + 2y \iff \left\{ \left(x - \frac{1}{2}\right)^{2} + \left(y - 1\right)^{2} = \frac{5}{4} \cdots \right\} \cdots (*)$$

ここで、 $2x^2 - ay = 0$ より、 $a \neq 0$ であるから、 $y = \frac{2x^2}{a}$ これを点 P の軌跡の式 (*) に代入して、

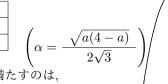
$$x^2 + \frac{4x^4}{a^2} = x + \frac{4x^2}{a} \iff x\left\{4x^3 - a(4-a)x - a^2\right\} = 0$$
 したがって、方程式 $4x^3 - a(4-a)x - a^2 = 0$ が 0 以外の 2 つの異なる実数解をもてばよい.

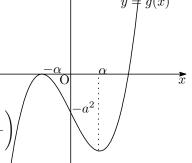
$$g'(x) = 12x^2 - a(4-a)$$

ここで g(x) が極値をもつことが必要である.

$$∴ 0 < a < 4$$
 このとき

\boldsymbol{x}		$-\alpha$		α	
g'(x)	+	0	_	0	+
g(x)	7	極大	>	極小	7





 $g(0) = -a^2 < 0$ であるから条件を満たすのは、

右図の場合

$$g\left(-\frac{\sqrt{a(4-a)}}{2\sqrt{3}}\right) = 4\cdot\left(-\frac{\sqrt{a(4-a)}}{2\sqrt{3}}\right)^3 + a(4-a)\cdot\frac{\sqrt{a(4-a)}}{2\sqrt{3}} - a^2 = 0$$

$$\therefore 4 - a = 3a^2 \text{ から, } (3a+1)(a-1) = 0 \text{ よって, } 0 < a < 4 \text{ より, } a = 1 \text{ (適意)}$$
このとき, $x(4x^3 - 3x - 1) = x(x-1)(2x+1)^2 = 0$ から, $x = -\frac{1}{2}$, 0, 1

共有点と
$$a$$
 の値は $\left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{2}\right)$, $(0, 0)$, $(1, 2)$ $a = 1$ ··· (答)

2012 岡山大学 (理系)

1

O を原点とする座標平面における曲線 C : $\frac{x^2}{4} + y^2 = 1$ 上に点 $P\left(1, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$ をとる.

- (1) C の接線で直線 OP に平行なものをすべて求めよ.
- (2) 点 Q が C 上を動くとき, \triangle OPQ の面積の最大値と,最大値を与える Q の座標をすべて求めよ.

2

表の出る確率が p, 裏の出る確率が q である硬貨を用意する.ここで, p, q は正の定数で, p+q=1 を満たすとする.座標平面における領域 D を

$$D = \left\{ (x, y) \mid 0 \le x \le 2, \ 0 \le y \le 2 \right\}$$

とし,D 上を動く点 Q を考える.Q は点 (0,0) から出発し,硬貨を投げて表が出れば x 軸方向に +1 だけ進み,裏が出れば y 軸方向に +1 だけ進む.なお,この規則で D 上を進めないときには,その回はその点にとどまるものとする.このとき以下の問いに答えよ.

- (1) 硬貨を 4 回投げて Q が点 (2, 2) に到達する確率 P_4 を求めよ.
- (2) 硬貨を5回投げて5回目に初めてQが(2, 2)に到達する確率 P_5 を求めよ.
- (3) $P_5 = \frac{1}{9}$ のとき,p の値を求めよ.

2012 岡山大学 (理系)

3

a を正の定数とし,座標平面上の 2 曲線 $C_1:y=e^{x^2},~C_2:y=ax^2$ を考える.このとき以下の問いに答えよ.ただし必要ならば $\lim_{t\to +\infty}\frac{e^t}{t}=+\infty$ であることを用いてもよい.

- (1) t>0 の範囲で,関数 $f(t)=\frac{e^t}{t}$ の最小値を求めよ.
- (2) 2 曲線 C_1 , C_2 の共有点の個数を求めよ.
- (3) C_1 , C_2 の共有点の個数が 2 のとき、これらの 2 曲線で囲まれた領域を y 軸のまわりに回転させてできる立体の体積を求めよ.

4

f(x) = 4x(1-x) とする. このとき

$$\begin{cases} f_1(x) = f(x) \\ f_{n+1}(x) = f_n(f(x)) & (n = 1, 2, \dots) \end{cases}$$

で定まる多項式 $f_n(x)$ について以下の問いに答えよ.

- (1) 方程式 $f_2(x) = 0$ を解け.
- (2) $0 \le t < 1$ を満たす定数 t に対し、方程式 f(x) = t の解を $\alpha(t)$ 、 $\beta(t)$ とする. c が $0 \le c < 1$ かつ $f_n(c) = 0$ を満たすとき、 $\alpha(c)$ 、 $\beta(c)$ は $f_{n+1}(x) = 0$ の解であることを示せ.
- (3) $0 \le x \le 1$ の範囲での方程式 $f_n(x) = 0$ の異なる解の個数を S_n とする.このとき S_{n+1} を S_n で表し,一般項 S_n を求めよ.

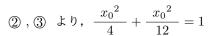
—解答例—

1

(1) 接点を $\mathrm{Q}(x_0,\ y_0)$ とおくと接線の方程式は $\dfrac{x_0x}{4} + y_0y = 1 \cdots$ ① とおける.

① の法線ベクトル $\left(\frac{x_0}{4}, y_0\right)$ は $\overrightarrow{OP} = \left(1, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$ に $\sqrt{3}x - 2y = -4$ 垂直であるから

垂直であるから
$$\left(\frac{x_0}{4}, y_0\right) \cdot (2, \sqrt{3}) = \frac{x_0}{2} + \sqrt{3}y_0 = 0 \cdots 2$$
また、 $Q(x_0, y_0)$ は C 上の点であるから
$$\frac{{x_0}^2}{4} + y_0^2 = 1 \cdots 3$$



したがって、 $x_0^2 = 3$ より、 $x_0 = \pm \sqrt{3}$ で、 $y_0 = \mp \frac{1}{2}$ (複号同順)

よって求める接線の方程式は,

$$\sqrt{3}x - 2y = \pm 4$$
 (複号同順) \cdots (答)

(2) \triangle OPQ の面積を OP を底辺とする三角形を考えて、高さ h を最大とするのは、点 O から接線へ下ろした垂線の長さがが最大であればよい.

$$\max h = \frac{|-4|}{\sqrt{3+4}} = \frac{4}{\sqrt{7}}$$
 より
$$S = \frac{1}{2} \times \mathrm{OP} \times h = \frac{1}{2} \times \sqrt{1 + \frac{3}{4}} \times \frac{4}{\sqrt{7}}$$

$$= \mathbf{1} \cdots (答)$$
 このとき、 (1) より、接点 $\left(\pm\sqrt{3}, \mp\frac{1}{2}\right)$ (複号同順) \cdots (答)

(別解)
$$(1)$$
 $y = \frac{\sqrt{3}}{2}x + k$ とおいて,
$$\frac{x^2}{4} + \left(\frac{\sqrt{3}}{2}x + k\right)^2 = 1 \quad \therefore x^2 + \sqrt{3}x + k^2 - 1 = 0$$
接する条件から,判別式 $D = 3k^3 - 4(k^2 - 1) = 0 \quad \therefore k = \pm 2$ $\therefore y = \frac{\sqrt{3}}{2}x \pm 2 \cdots$ (答)

(2) $Q(2\cos\theta, \sin\theta)$ とおくと

$$S = \frac{1}{2} \left| \sin \theta - \sqrt{3} \cos \theta \right| = \left| \sin \left(\theta - \frac{\pi}{3} \right) \right|$$
 より S は、 $\sin \left(\theta - \frac{\pi}{3} \right) = \pm 1 \Longleftrightarrow \theta - \frac{\pi}{3} = \frac{\pi}{2}$ 、 $\frac{3}{2} \pi$ のとき、最大値 1 をとる. (以下略)

2012 岡山大学 (理系)

--解答例--

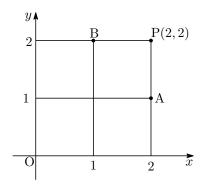
2

(1) 4回の試行のうち、2回表、2回裏が出ればよい、 その確率は

$$_4$$
C $_2p^2q^2 = 6p^2q^2 \cdots$ (答)

(2) 図において、4回の試行の後 A、または B にいれば よいので

$$\begin{cases} (i) A にいるとき & _{4}C_{3}p^{3}q \times q = 4p^{3}q^{2} \\ (ii) B にるとき & _{4}C_{1}pq^{3} \times p = 4p^{2}q^{3} \end{cases}$$



したがって, 求める確率は

$$4p^3q^2 + 4p^2q^3 = 4p^2q^2(p+q)$$

= $4p^2q^2\cdots$ (答) (∵ $p+q=1$)

(3) $(2) \text{ から, } 4p^2q^2 = \frac{1}{9} \text{ より, } pq = \frac{1}{6}$ $p+q=1 \text{ であるから, } p, \ q \text{ は方程式}$

$$t^2 - t + \frac{1}{6} = 0$$

の2解である. よって

$$t = \frac{1 \pm \sqrt{1 - \frac{2}{3}}}{2} = \frac{3 \pm \sqrt{3}}{6}$$

これらはいずれも 0 を満たす.

$$\therefore p = \frac{3 \pm \sqrt{3}}{6} \cdots (答)$$

2012 岡山大学 (理系)

--解答例--

3

 $f'(t)=rac{e^t(t-1)}{t^2}$ (t>0) であるから,t=1 のとき極小かつ最小.

t	0	• • •	1		
f'(t)		-	0	+	+
f(t)	$(+\infty)$	X	1	7	$(+\infty)$

$$\lim_{t\to +0} f(t) = \infty$$
, $\lim_{t\to +\infty} f(t) = +\infty$ であるから

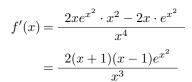
最小值
$$: e(t=1)\cdots$$
(答)

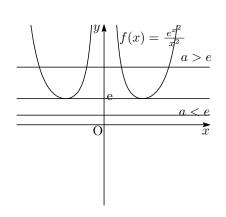
(2) $x \neq 0$ であるから

$$e^{x^2} = ax^2 \iff a = \frac{e^{x^2}}{x^2} \quad (x \neq 0)$$

$$\begin{cases} f(x) &= \frac{e^{x^2}}{x^2} \cdots \textcircled{1} \\ y &= a \cdots \textcircled{2} \end{cases}$$

の共有点の個数を調べる.





増減表をかいて、右図(上)のグラフより、

 $\lim_{x \to \pm \infty} f(x) = +\infty, \quad \lim_{x \to \pm 1} f(x) = +\infty$ であるから求める共有点の個数は

	x			-1		0		1		
	f'(x)		_	0	+		_	0	+	
Ī	f(x)	∞	×	e	7		×	e	7	

(答)
$$\begin{cases} (i) \ 0 < a < e \quad \text{のとき, } \cdots \text{0} \ \text{個} \\ (ii) \ a = e \quad \text{のとき, } \cdots \text{2} \ \text{個} \\ (iii) \ a > e \quad \text{のとき, } \cdots \text{4} \ \text{個} \end{cases}$$

 $(3) \ a = e \ \mathcal{O} \ \xi \ \xi, \ y = e^{x^2} \ \sharp \ \mathfrak{h} \ , \ x^2 = \log y, \quad y = ex^2 \ \sharp \ \mathfrak{h} \ , \ x^2 = \frac{y}{e}$

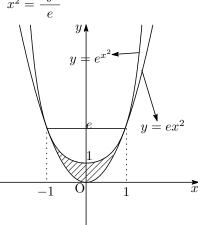
斜線部分のy軸まわりの回転体の体積をVとするとき,

$$V = \pi \int_0^e \frac{y}{e} dy - \pi \int_1^e \log y \, dy$$

$$= \pi \left[\frac{y^2}{2e} \right]_0^e - \pi \left[y \log y - y \right]_1^e$$

$$= \frac{e\pi}{2} - \pi \left\{ (e \log e - e) - (\log 1 - 1) \right\}$$

$$= \frac{(e - 2)\pi}{2} \cdots (\stackrel{\mathfrak{S}}{=})$$
11



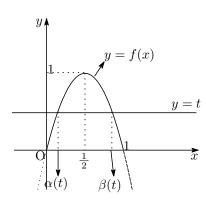
2012 岡山大学 (理系)

—解答例—

4

- (1) $f_2(x) = 4f(x)(1 f(x)) = 0$ より、f(x) = 0, 1 4x(1-x) = 0, 4x(1-x) = 1 であるから、x = 0, 1、 $(2x-1)^2 = 0$ したがって、x = 0, 1、 $\frac{1}{2}$ …(答)
- (2) y = f(x) のグラフより f(x) = t において $0 \le \alpha(t) < \frac{1}{2}$, $\frac{1}{2} < \beta(t) \le 1$ として一般性を失わない. n = 1 のときは, x = 0, 1 となり, $f_2(x) = 0$ の解である.((1))

 $f(x)=c\ (0 \le c < 1)$ なる, c に対して, $x=\alpha(c)$, $\beta(c)$ が 対応しており, $f_{n+1}(x)=f_n(f(x))=f_n(c)=0$ であるか ら, $\alpha(c)$, $\beta(c)$ は, $f_{n+1}(x)=0$ の解である. (終)



(3) (1), (2) より, $f_1(0)=0$, $f_2(0)=f_1(f(0))=0$ $f_3(0)=f_2(0)=0$ となるから,以下同様の操作にて, $f_{n+1}(0)=f_n(0)=0$ · · · ①

また,
$$f(1) = 0$$
 から, $f_{n+1}(1) = f_n(f(1)) = f_n(0) = 0$ ∴ $f_{n+1}(1) = 0 \cdots ②$

① 、② より、 $0 \le t < 1$ にたいして、f(x) = t を満たす t の個数を考える。 $f_{n+1}(t) = 0$ なる t の値に対して、 $0 < t < \frac{1}{2}$ に 2 つ、 $\frac{1}{2}$ < t < 1 に 2 つの t が対応する.t = 1 の場合はただ一つであることから

$$S_{n+1} = 2(S_n - 1) + 1 = 2 S_n - 1$$
 また, $S_1 = 2$
 $\therefore S_{n+1} - 1 = 2(S_n - 1)$ と変形して
 $S_n - 1 = 2 (S_{n-1} - 1) = 2^2 (S_{n-2} - 1) = \dots = 2^{n-1} (S_1 - 1)$
 $\therefore S_n - 1 = 2^{n-1}$ ($\therefore S_1 = 2$)
 $\therefore S_n = 2^{n-1} + 1 \dots$ (答)

2011 岡山大学 (理系)

1

t を実数とする. 行列 $A=\begin{pmatrix} t & t-1 \\ 1-t & 2-t \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A の逆行列 A^{-1} が存在することを示せ.
- (2) $A + A^{-1}$, $A A^{-1}$, $(A A^{-1})^2$ を求めよ.
- (3) $A^{2n} t A^n$ $(n = 1, 2, 3, \cdots)$ が n によらない行列になるという. このときの t の値を求めよ.

2

n を 3 以上の整数とする。3n 枚のカードに 1 から 3n までの数字が 1 つずつ書かれている。この中から 3 枚のカードを取りだす。ひとたび取りだしたカードは戻さないものとする。

- (1) 3枚のカードの数字がすべて3の倍数である確率を求めよ.
- (2) 3枚のカードの数字の和が3の倍数である確率を求めよ.
- (3) 3 枚のカードの数字の積が 3 の倍数である確率と 3 枚のカードの数字の和が 3 の倍数でない確率とはどちらが大きいか調べよ.

2011 岡山大学 (理系)

3

n を自然数とする. 曲線 $y=x^2(1-x)^n$ $(0 \le x \le 1)$ と x 軸とで囲まれる図形の面積を S_n とする.

- (1) S_n を求めよ.
- (2) $T_n = S_1 + S_2 + \cdots + S_n$ とするとき, $\lim_{n \to \infty} T_n$ を求めよ.

4

 $f(x)=e^{-x^2}$ とする.曲線 y=f(x) 上の点 $\mathbf{A}\Big(a,\ f(a)\Big)$ における接線を ℓ ,原点 \mathbf{O} を通り ℓ に垂直な直線を ℓ' とし, ℓ と ℓ' の交点を \mathbf{P} とする.

- (1) 線分 OP の長さを求めよ.
- (2) ℓ と y 軸との交点を Q とし、 $\angle POQ$ を θ ($0 \le \theta \le \pi$) とする. $\sin \theta$ を a を用いて表せ.
- (3) (2) で求めた $\sin\theta$ を最大にする a の値と、そのときの $\sin\theta$ の値を求めよ.

2011 岡山大学 (理系)

--解答例--

1

(1) $\det A = t(2-t) - (1-t)(t-1) = 1 \neq 0$ よって A の逆行列 A^{-1} が存在し、 $A^{-1} = \begin{pmatrix} 2-t & 1-t \\ t-1 & t \end{pmatrix}$ (終)

(2)

$$A + A^{-1} = \begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 2 \end{pmatrix} = 2E \text{ (答)} \cdots \text{①}$$

$$A - A^{-1} = \begin{pmatrix} 2t - 2 & 2t - 2 \\ 2 - 2t & 2 - 2t \end{pmatrix}$$

$$= 2(t - 1) \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix} \text{ (答)} \cdots \text{②}$$

$$(A - A^{-1})^2 = 4(t - 1)^2 \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix}$$

$$= 4(t - 1)^2 \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} = O \text{ (答)} \cdots \text{③}$$

$$(3)$$
 $\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix} = X$ とおくと、③ から、 $X^n = O$ $(n \ge 2)$ ① 、② より

$$\begin{split} A + A^{-1} &= 2E \\ A - A^{-1} &= 2(t-1)X \\ &\therefore 2A = 2E + 2(t-1)X \quad \ \ \, \& \, 0 \quad \ \, A = E + (t-1)X \end{split}$$

二項定理によって

$$A^{n} = \left\{ E + (t-1)X \right\}^{n} = {}_{n}C_{0}E^{n} + {}_{n}C_{1}(t-1)E^{n-1}X + \overbrace{{}_{n}C_{2}(t-1)^{2}E^{n-2}X^{2} + \cdots }^{=O}$$

$$= E + n(t-1)X$$

$$\therefore A^{2n} = \left\{ E + n(t-1)X \right\}^{2} = E + 2n(t-1)X \quad (\because X^{2} = O)$$

$$A^{2n} - tA^{n} = E + 2n(t-1)X - t\left\{ E + n(t-1)X \right\}$$

$$= (1-t)E + n(2-t)(t-1)X \cdot \cdots \cdot (*)$$

(*) がn に無関係な行列になるための条件は

$$(2-t)(t-1)=0$$
 であるから $t=1, 2$ (答)

2011 岡山大学 (理系)

—解答例—

- $oxed{2}$ 3 で割った余りは 0, 1, 2 であることから剰余による集合をそれぞれ A_0 , A_1 , A_2 とすると 3n 枚のカードにおいては, A_0 , A_1 , A_2 の要素の個数はいずれも n で等しい.
 - (1) 3 枚のカードがいずれも A_0 の要素である確率は

$$rac{{}_{n}\mathrm{C}_{3}}{{}_{3n}\mathrm{C}_{3}} = rac{rac{n(n-1)(n-2)}{3\cdot 2\cdot 1}}{rac{3n(3n-1)(3n-2)}{3\cdot 2\cdot 1}} = rac{(n-1)(n-2)}{3(3n-1)(3n-2)}$$
 (答)

(2) 3 枚のカードの数字 x, y, z について数字の和が3 の倍数となるのは

$$\left\{ \begin{array}{ll} (\mathrm{i}) & x,\ y,\ z \in A_0\ \text{の場合}\ \cdots \frac{(n-1)(n-2)}{3(3n-1)(3n-2)} & ((1)\ \text{のとき}) \\ (\mathrm{ii}) & x,\ y,\ z \in A_1,\ \sharp \text{たは},\ x,\ y,\ z \in A_2\ \text{のときも同様}\ \frac{(n-1)(n-2)}{3(3n-1)(3n-2)} \\ (\mathrm{iii}) & x \in A_0,\ y \in A_1,\ z \in A_2\ \text{のとき} \cdots \frac{n^3}{3n\mathrm{C}_3} = \frac{2n^2}{(3n-1)(3n-2)} \end{array} \right.$$

(i)~(iii) は互いに排反であるから、求める確率は

$$\frac{(n-1)(n-2)}{3(3n-1)(3n-2)} \times 3 + \frac{2n^2}{(3n-1)(3n-2)} = \frac{3n^2 - 3n + 2}{(3n-1)(3n-2)}$$
 (答)

(3) どちらも余事象をとって考える.

3 枚のカードの積が
$$3$$
 の倍数でない確率は $\frac{2nC_3}{3nC_3} = \frac{2(2n-1)(2n-2)}{3(3n-1)(3n-2)}$

3 枚のカードの積が3 の倍数である確率を $p_1,3$ 枚のカードの和が3 でない確率を p_2 とする.

$$p_1 - p_2 = 1 - \frac{2(2n-1)(2n-2)}{3(3n-1)(3n-2)} - \left(1 - \frac{3n^2 - 3n + 2}{(3n-1)(3n-2)}\right) \quad (\because (2))$$

$$= \frac{n^2 + 3n + 2}{3(3n-1)(3n-2)} = \frac{(n+1)(n+2)}{3(3n-1)(3n-2)} > 0$$

ゆえに $p_1 > p_2$ であるから 積が 3 の倍数である確率の方が大きい ... (答)

2011 岡山大学 (理系)

--解答例--

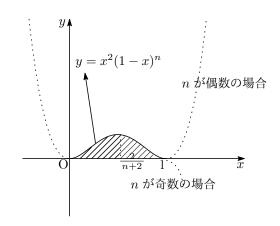
3

(1)

$$y = x^2 (1-x)^n$$
 から,
$$y' = 2x (1-x)^n + x^2 (1-x)^{n-1} \cdot (-1)$$
$$= x (1-x)^{n-1} \{2 - (2+n)x\}$$
$$y' = 0 とおいて, x = 0, \frac{2}{n+2}, 1$$

増減表を書いて, グラフを書いて

x	0		$\frac{2}{n+2}$		1
y'		+	0	_	
y	0	7	最大	×	0



 $0 \le x \le 1$ で $y \ge 0$ であるから

$$S_n = \int_0^1 x^2 (1-x)^n dx$$

$$= \left[-x^2 \frac{(1-x)^{n+1}}{n+1} \right]_0^1 + \frac{2}{n+1} \int_0^1 x (1-x)^{n+1} dx$$

$$\int_0^1 x (1-x)^{n+1} dx = \left[-x \frac{(1-x)^{n+2}}{n+2} \right]_0^1 + \frac{1}{n+2} \int_0^1 (1-x)^{n+2}$$

$$= \frac{1}{n+2} \left[-\frac{(1-x)^{n+3}}{n+3} \right]_0^1 = \frac{1}{(n+2)(n+3)}$$

$$\therefore S_n = \frac{2}{(n+1)(n+2)(n+3)}$$
 (\Lefta)

$$S_k = rac{2}{(k+1)(k+2)(k+3)} = rac{1}{(k+1)(k+2)} - rac{1}{(k+2)(k+3)}$$
 であるから

$$T_n = \sum_{k=1}^n S_k$$

$$= \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{(k+1)(k+2)} - \frac{1}{(k+2)(k+3)} \right)$$

$$= \left(\frac{1}{2 \cdot 3} - \frac{1}{3 \cdot 4} \right) + \left(\frac{1}{3 \cdot 4} - \frac{1}{4 \cdot 5} \right) + \dots + \left(\frac{1}{(n+1)(n+2)} - \frac{1}{(n+2)(n+3)} \right)$$

$$= \frac{1}{6} - \frac{1}{(n+2)(n+3)}$$

$$\therefore \lim_{n \to \infty} T_n = \frac{1}{6}$$
(答)

y = f(x)

—解答例—

4

$$f'(x) = -2xe^{-x^2}$$
 あるから、 ℓ の方程式は $y - e^{-a^2} = -2ae^{-a^2}(x - a)$ $\therefore \ell : y = -2ae^{-a^2}x + (2a^2 + 1)e^{-a^2}$

$$y = \frac{e^{a^2}}{2a} x$$
 であるから
$$\frac{e^{a^2}}{2a} x = -2ae^{-a^2}x + (2a^2 + 1)e^{-a^2}$$
 とおいて

$$(e^{a^2} + 4a^2)x = 2a^2 + 1$$
 より
$$x = \frac{2a(2a^2 + 1)}{e^{2a^2} + 4a^2}, \ y = \frac{e^{a^2}(2a^2 + 1)}{e^{2a^2} + 4a^2}$$
 $\overrightarrow{OP} = \frac{2a^2 + 1}{e^{2a^2} + 4a^2} \left(2a, \ e^{a^2}\right)$ であるから

$$|OP| = \frac{2a^2 + 1}{e^{2a^2} + 4a^2} \left| \sqrt{4a^2 + e^{2a^2}} \right| = \frac{2a^2 + 1}{\sqrt{4a^2 + e^{2a^2}}}$$
 (答)

(2)
$$\overrightarrow{OQ} = \frac{1}{e^{a^2}} (0, 2a^2 + 1) \ \sharp \ 0, \ OQ = \frac{2a^2 + 1}{e^{a^2}}$$

$$\cos \theta = rac{\mathrm{OP}}{\mathrm{OQ}} = rac{rac{2a^2 + 1}{\sqrt{e^{2a^2} + 4a^2}}}{rac{2a^2 + 1}{e^{a^2}}} = rac{e^{a^2}}{\sqrt{e^{a^2} + 4a^2}}$$
 であるから

$$\sin \theta = \sqrt{1 - \left(\frac{e^{a^2}}{\sqrt{e^{a^2} + 4a^2}}\right)^2} = \frac{2|a|}{\sqrt{e^{2a^2} + 4a^2}}$$
 (答)

(3)
$$\sin^2 \theta = \frac{4a^2}{e^{2a^2} + 4a^2} = g(a)$$
 とおいて

$$g'(a) = 4 \times \frac{2a(e^{2a^2} + 4a^2) - a^2(4ae^{2a^2} + 8a)}{(e^{2a^2} + 4a^2)^2} = \frac{8a(1 - 2a^2)e^{2a^2}}{(4a^2 + e^{2a^2})^2}$$

$$g'(a) = 0$$
 とおいて, $a = 0$, $\pm \frac{1}{\sqrt{2}}$ より,増減表をかいて

a		$-\frac{1}{\sqrt{2}}$		0		$\frac{1}{\sqrt{2}}$	
g'(a)	+	0	_	0	+	0	_
g(a)	7	極大	¥	0	7	極大	×

$$a=\pm \frac{1}{\sqrt{2}}$$
 のとき, $\sin^2 \theta = \frac{2}{e+2}$ で最大であり, $0 \le \theta \le \pi$ より $\sin \theta$ も最大である.

・
$$a=\pmrac{1}{\sqrt{2}}$$
 のとき, $\sin heta$ の最大値 $\sqrt{rac{2}{e+2}}$ (答)

$$\fbox{id}$$
 (3) では $2a^2=t~(\geqq0)$ とおいて

$$\overline{\sin^2 \theta} = h(t) = \frac{2t}{e^t + 2t} \text{ から, } h'(t) = \frac{2\left\{e^t + 2t - t(2^t + 2)\right\}}{(e^t + 2t)^2} = \frac{2e^t(1-t)}{(e^t + 2t)^2}$$
 とするほうが better!.

2010 岡山大学 (理系)

1

男性 M_1,\cdots,M_4 の 4 人と女性 F_1,\cdots,F_4 の 4 人が,横一列に並んだ座席 S_1,\cdots,S_8 に座る場合を考える.

- (1) 同性どうしが隣り合わない座り方は何通りあるか.
- (2) (1) の座り方の中で、 M_1 の両隣が F_1 と F_2 となる座り方は何通りあるか.
- (3) (1) の座り方の中で、 M_1 と F_1 が隣り合わない座り方は何通りあるか.

2

次の条件で定められる数列 $\{a_n\}$ を考える.

$$a_1 = 1$$
, $a_2 = 3$, $a_{n+2} = a_n + a_{n+1}$ $(n = 1, 2, 3, \dots)$

(1) すべての自然数 n に対して

$$X \begin{pmatrix} a_n & a_{n+1} \\ a_{n+1} & a_{n+2} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{n+1} & a_{n+2} \\ a_{n+2} & a_{n+3} \end{pmatrix}$$

が成り立つように行列 X を定めよ.

(2) 自然数 n に対して $a_n a_{n+2} - \left(a_{n+1}\right)^2$ の値を推測して、その結果を数学的帰納法によって証明せよ.

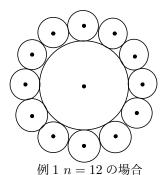
3

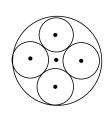
原点を中心とする半径 1 の円を C_1 とし,原点を中心とする $\frac{1}{2}$ の円を C_2 とする. C_1 上に点 $P_1(\cos\theta,\,\sin\theta)$ があり,また C_2 上に点 $P_2\Big(\frac{1}{2}\cos3\theta,\,\frac{1}{2}\sin3\theta\Big)$ がある.ただし, $0\le\theta<\frac{\pi}{2}$ であるとする.線分 P_1P_2 の中点を Q とし,点 Q の原点からの距離を $r(\theta)$ とする.このとき,次の問い に答えよ.

- (1) 点 Q の x 座標のとりうる値の範囲を求めよ.
- (2) 点 Q が y 軸上にあるときの θ の値を α とする. このとき, α および定積分 $\int_0^{\alpha} \left\{ r(\theta) \right\}^2 d\theta$ を求めよ.

4

平面上に半径 1 の円 C がある。この円に外接し,さらに隣り合う 2 つの円が互いに外接するように,同じ大きさのn この円を (例 1) のように配置し,その一つの円の半径を R_n とする。また,円 C に内接し,同じ大きさのn この円を (例 2) のように配置し,その一つの円の半径を r_n とする。ただし, $n \ge 3$ とする。このとき,次の問いに答えよ。





- (1) R_6 , r_6 を求めよ.
- (2) $\lim_{n\to\infty} n^2(R_n-r_n)$ を求めよ. ただし、 $\lim_{\theta\to 0} \frac{\sin\theta}{\theta} = 1$ を用いてよい.

例 2 n = 4 の場合

2010 岡山大学 (理系)

—解答例—

_		
1		
	-	
	_	

(1) 次のような 2 通りの場合が考えられる.	
(男性)(女性)とする	
(i)	
(ii)	

(i),(ii) のとき、それぞれ、 $4! \times 4! = 576$ 通りあるから $2 \times 576 = 1152$ 通り (答)

(2)

(i) の場合, M_1 が左から3番目,5番目,7番目の場合があり,

いずれの場合も、 F_1 、 F_2 の座り方がそれぞれ 2 通りあり、残りの女性の座り方が 2 通り、残りの男性の座り方が 3! 通りある.

したがって、 $3 \times 2 \times 2 \times 3! = 72$ 通り

(ii) の場合も同様に、72 通りある. よって題意の座り方は

$$72 \times 2 = 144$$
 通り (答)

(3)

(i) の場合, M_1 が左端のとき, F_1 はその右側の席を除く 3 通りの座り方があり,残りの女性の座り方も 3!=6 通り,またそれぞれに対して残りの男性の座り方が 3!=6 通り ある,よって, $6\times 6\times 3=108$ 通り M_1 が 3 番目,5 番目,7 番目のとき, F_1 はその両隣を除く 2 通りの座り方があり,残り 3 人に女性の座り方と男性の座り方を考えて

 $3 \times 2 \times 3! \times 3! = 216$ 通り

(ii) の場合も (i) の場合の対称性を考えて、同数の座り方がある. よって、求める場合の数は

$$(108+216) \times 2 = 648$$
 通り (答)

註

 M_1 , F_1 の 2 人が隣り合う場合を考えて、全体から引いてもよい.

2010 岡山大学 (理系)

--解答例--

2

(1) $a_1 = 1$, $a_2 = 3$, $a_3 = 4$, $a_4 = 7$ は条件を満たすから

$$X \begin{pmatrix} a_1 & a_2 \\ a_2 & a_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_2 & a_3 \\ a_3 & a_4 \end{pmatrix}, \quad \text{とおいて,} \quad X \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 3 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & 4 \\ 4 & 7 \end{pmatrix}$$
 よって,
$$\begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}^{-1} = -\frac{1}{5} \begin{pmatrix} 4 & -3 \\ -3 & 1 \end{pmatrix} \text{ より, } X = -\frac{1}{5} \begin{pmatrix} 3 & 4 \\ 4 & 7 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 4 & -3 \\ -3 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \cdots \oplus$$
 逆に
$$X = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \text{ のとき, } a_{n+3} = a_{n+1} + a_{n+2} \text{ を考えて}$$

$$\begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_n & a_{n+1} \\ a_{n+1} & a_{n+2} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{n+1} & a_{n+2} \\ a_{n+2} & a_{n+3} \end{pmatrix} \cdots ②$$

② はすべての自然数について成り立つ. よって、求める
$$X = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$$
 (答)

(2)
$$d_n = a_n a_{n+2} - (a_{n+1})^2$$
 とおく.
一般に、 $\det(AB) = \det(A) \cdot \det(B)$ が成り立つ. ② より

$$(-1)d_n = d_{n+1}$$
, $d_1 = a_1a_3 - (a_2)^2 = 4 - 9 = -5$

また,
$$d_2 = a_2 a_4 - (a_3)^2 = 5$$
 となるので, $d_n = 5(-1)^n$ と推測できる.

以下これを数学的帰納法によって証明する.

 1° n=1 のときは $d_1=-5$ で成立.

 $2^{\circ} n = k (k \ge 1 なる整数) のとき$

$$d_k = 5(-1)^k \cdot \dots \cdot (*)$$

が成り立つと仮定すると

$$d_{k+1} = -1 \cdot d_k = -1 \cdot 5(-1)^k = 5(-1)^{k+1} \qquad (\because (*))$$

これより、n = k + 1 のときも成立する.

以上より、
$$d_n = a_n a_{n+2} - (a_{n+1})^2 = \mathbf{5}(-1)^n$$
 (答)

2010 岡山大学 (理系)

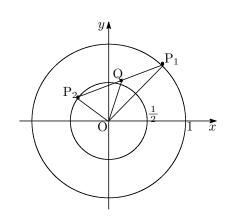
--解答例--

3

(1) 2 点 $P_1(\cos\theta, \sin\theta)$, $P_2\left(\frac{1}{2}\cos 3\theta, \frac{1}{2}\sin 3\theta\right)$ とお

線分 P_1P_2 の中点を Q(x, y) とおく.

$$x = \frac{1}{2}\cos\theta + \frac{1}{4}\cos3\theta\cdots$$
①
$$y = \frac{1}{2}\sin\theta + \frac{1}{4}\sin3\theta\cdots$$
②
$$3 倍角の公式より①は$$
$$x = \frac{1}{2}\cos\theta + \cos^3\theta - \frac{3}{4}\cos\theta$$
$$= \cos^3\theta - \frac{1}{4}\cos\theta$$



t	0		$\frac{\sqrt{3}}{6}$		1
$\frac{dx}{dt}$		_	0	+	
x	0	×	$-\frac{\sqrt{3}}{36}$	7	$\frac{3}{4}$

増減表をかいて(右図)求めるxの範囲は

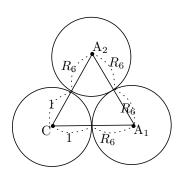
$$-rac{\sqrt{3}}{36} \leqq x \leqq rac{3}{4}$$
 (答)

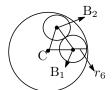
2010 岡山大学 (理系)

--解答例--

4

 $egin{aligned} & (1) \ & \angle ext{A}_1 ext{CA}_2 = rac{\pi}{3} \ ext{であるから} \ & ext{CA}_1 = ext{CA}_2 = 1 + R_6, \ ext{A}_1 ext{A}_2 = 2R_6 \ & ext{ゆえに} \ 2R_6 + 1 + R_6 \ ext{より,} \ extbf{R}_6 = \mathbf{1} \ ext{(答)} \ & ext{また,} \ ext{下図において,} \ ext{\triangleCB}_1 ext{B}_2 \ ext{$は正三角形.} \ & ext{$\therefore$1-r_6=2r_6$ $ ext{\downarrow}$}, \ extbf{r}_6 = rac{\mathbf{1}}{\mathbf{3}} \ ext{(答)} \end{aligned}$





(2) (1) をモデルとして同様に考えると

$$R_n = (1 + R_n) \sin \frac{\pi}{n}, \quad R_n = \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 - \sin \frac{\pi}{n}}$$

$$r_n = (1 - r_n) \sin \frac{\pi}{n}, \quad r_n = \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 + \sin \frac{\pi}{n}} \quad \text{であるから}$$

$$R_n - r_n = \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 - \sin \frac{\pi}{n}} - \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 + \sin \frac{\pi}{n}}$$

$$= \frac{\sin \frac{\pi}{n} \cdot 2 \sin \frac{\pi}{n}}{1 - \sin^2 \frac{\pi}{n}} = \frac{2 \sin^2 \frac{\pi}{n}}{\cos^2 \frac{\pi}{n}}$$

$$\theta = \frac{\pi}{n} \quad \text{とおくと}, n \to \infty \quad \text{のとき} \quad \theta \to 0$$

$$\therefore \lim_{n \to \infty} n^2 (R_n - r_n) = \lim_{\theta \to 0} \frac{\pi^2}{\cos^2 \theta} \cdot \frac{2 \sin^2 \theta}{\cos^2 \theta}$$

$$= \lim_{\theta \to 0} \frac{2\pi^2}{\cos^2 \theta} \left(\frac{\sin \theta}{\theta}\right)^2$$

$$= 2\pi^2 (\stackrel{\mathbf{\Xi}}{\mathbf{\Xi}})$$

2009 岡山大学 (理系)

1

1 から 6 までの目があるさいころがある.さいころを振って出た目が k のとき,単位円周上の点 P が原点を中心として正の向きに角 $\frac{\pi}{k}$ だけ回転する.点 P の最初の位置を P_0 として,次の問いに答えよ.

- (1) さいころを何回か振って、点 P の回転した角の合計が $\frac{\pi}{2}$ となる目の出方を列挙せよ.
- (2) さいころを n 回振って移動した後の位置を P_n とする. $P_4=P_0$ となる目の出方は何通りあるか.
- (3) さいころを 2 回振ったところ、1 回目は 4 の目、2 回目は 3 の目が出た.そのとき、三角形 $P_1P_2P_3$ の 面積を最大とするような、3 回目の目は何か.理由を付けて答えよ.

2

 2×2 行列 A と B が,条件

$$A \neq O$$
, $B \neq O$, $AB = BA = O$

を満たしているとする.ただし,O は零行列を表す.このとき以下の問い (1), (2) に答えよ.もし必要であれば,行列 $X=\begin{pmatrix} p & q \\ r & s \end{pmatrix}$ に対して

$$X^{2} = (p+q)X - (ps - qr)E \cdot \dots \cdot (*)$$

が成り立つことを使ってもよい. ただし, E は単位行列を表す.

- (1) ある数 α , β に対して $A^2 = \alpha A$, $B^2 = \beta B$ となることを示せ.
- (2) (1) において $\alpha + \beta = 1$ のとき, A + B = E を示せ.

2009 岡山大学 (理系)

3

x を実数とし、次の無限級数を考える.

$$x^{2} + \frac{x^{2}}{1 + x^{2} - x^{4}} + \frac{x^{2}}{(1 + x^{2} - x^{4})^{2}} + \dots + \frac{x^{2}}{(1 + x^{2} - x^{4})^{n-1}} + \dots$$

- (1) この無限級数が収束するようなxの範囲を求めよ.
- (2) この無限級数が収束するとき、その和として得られる x の関数を f(x) とかく、また

$$h(x) = f\left(\sqrt{|x|}\right) - |x|$$

とおく. このとき, $\lim_{x\to 0} h(x)$ を求めよ.

(3) (2) で求めた極限値を a とするとき, $\lim_{x\to 0} \frac{h(x)-a}{x}$ は存在するか. 理由を付けて答えよ.

4

座標平面上に

$$f(x) = 2(x-1)e^{1-\frac{1}{2}x}$$

で与えられる曲線 C: y=f(x) と、直線 $\ell; y=ax$ (a は定数) を考える。このとき、次の問いに答えよ.

- (1) C と ℓ がちょうど 2 個の共有点をもつための a の条件を求めよ.もし必要であれば, $\lim_{x\to\infty} f(x)=0$ を使ってもよい.
- (2) C と ℓ が第 1 象限で接するとき,C と ℓ ,および x 軸で囲まれた領域の面積を求めよ.

2009 岡山大学 (理系)

--解答例--

$|m{1}|$ さいころの目の出方と回転角の関係は

(1)

		<u> </u>		I			1	, (i) 1 回の試行のとき,	$\cdots (2)$	
目	1	2	3	4	5	6	(炊)	` '	` /	2) (4 4)
回転角	π	<u>π</u>	<u>π</u>	<u>π</u>	<u>π</u>	<u>π</u>		(II) 2 回の試行のとき,		
H 14/3		_ 2	3	4	5	6	J	(III) 3 回の試行のとき,	$\cdots (6, 6, 6)$	5 通り

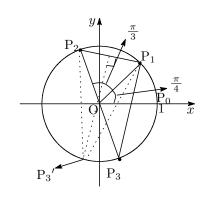
(2) さいころを 4 回振って 2π , 4π 回転する場合を調べると

出る目を
$$x, y, z, w$$
 $(x \le y \le z \le w)$ とおくと (i) $\frac{\pi}{x} + \frac{\pi}{y} + \frac{\pi}{z} + \frac{\pi}{w} = 2\pi$ のとき $\frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} + \frac{1}{w} = 2$ であり、 $\frac{4}{x} \ge \frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} + \frac{1}{w} \ge \frac{4}{w}$ より $x \le 2, w \ge 2$ となる、 $x = 1$ のとき、 $\frac{1}{y} + \frac{1}{z} + \frac{1}{w} = 1$ (*) であるから $\frac{3}{y} \ge 1$ よって、 $y = 1, 2, 3$ $y = 1$ のときは (*) を満たさず、不適. $y = 2$ のときは、 $\frac{1}{z} + \frac{1}{w} = \frac{1}{2}$ であり、 $(z - 2)(w - 2) = 4$ となり、 $(z, w) = (4, 4)$ 、 $(3, 6)$ また、 $y = 3$ のときは、 $\frac{1}{z} + \frac{1}{w} = \frac{2}{3}$ より、 $(2z - 3)(2w - 3) = 9$ このとき、 $(2z - 3, 2w - 3) = (3, 3)$ 、 $(1, 9) \iff (z, w) = (3, 3)$ (適)、 $(2, 6)$ (不適) $x = 2$ のとき、 $\frac{3}{y} \ge \frac{3}{2}$ から、 $y \le 2$ ∴ $y = 2$ このとき、 $\frac{2}{z} \ge 1$ から、 $z = 2$ であり、 $w = 2$ 以上より、 $(x, y, z, w) = (1, 2, 3, 6)$ 、 $(1.2.4.4)$ 、 $(1, 3, 3, 3)$ 、 $(2, 2, 2, 2)$ また、 (i) $\frac{\pi}{x} + \frac{\pi}{y} + \frac{\pi}{z} + \frac{\pi}{w} = 4\pi$ のとき $(x, y, z, w) = (1, 1, 1, 1)$ の 1 通りしかない、ここで、 x, y, z, w の大小をキャンセルして目の出方の総数は

$$4! + \frac{4!}{2!} + \frac{4!}{3!} + 1 + 1 = 42$$
 通り (答)

(3)

図のように $P_0(1,0)$ をとると, $\frac{\pi}{4}$ 回転したものを $\frac{\pi}{3}$ 回転して P_1 , P_2 をとることができる. 線分 P_1P_2 の距離 はの長さは一定であるから、高さを最大にするように点 P_3 をとればよい、 $\angle P_2 OP_3' = \frac{5}{6}\pi$ が最大であるが、表には その回転角はない. よって、それに最も近い π の回転を考 えれば、 $\triangle P_1P_2P_3$ の面積は最大となる. よって 3 回目のさ いころの目は1(答)



2009 岡山大学(理系)

--解答例--

2

(1)
$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$$
, $B = \begin{pmatrix} p & q \\ r & s \end{pmatrix}$ とおくと (*) より
$$\begin{cases} A^2 &= (a+d)A - (ad-bc)E & \cdots & \text{①} \\ B^2 &= (p+s)B - (ps-qr)E & \cdots & \text{②} \end{cases}$$

ここで,A の逆行列 A^{-1} が存在するとすれば,AB=BA=O の左右から A^{-1} をかけると B=O となり, $B\neq O$ に矛盾する.よって,A は逆行列をもたない.また,同様にして B も逆行列をもたない.①,② により

$$ad-bc=ps-qr=0$$
 … ③となり $A^2=\alpha A,\ B^2=\beta B$ $(\alpha=a+d,\ \beta=p+s)$

の形で表すことができる.(終)

(2)
$$\alpha = \beta = 1$$
 のとき $X = A + B$ とおく.

$$X^2 = (A+B)^2 = (A+B)(A+B)$$

 $= A^2 + AB + BA + B^2$
 $= A^2 + B^2$ (: $AB = BA = O$)
 $A^2 = A$, $B^2 = B$ であるから
 $X^2 = A + B = X$ よって $X(X - E) = O \cdots$ ④ と変形できる
 $AB = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p & q \\ r & s \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} ap + br & aq + bs \\ cp + dr & cq + ds \end{pmatrix} = O$
∴ $ap + br = aq + bs = cp + dr = cq + ds = 0 \cdots$ ⑤
 $X = \begin{pmatrix} a + p & b + q \\ c + r & d + s \end{pmatrix}$ であるから
 $\det X = (a+p)(d+s) - (b+q)(c+r) = (ad-bc) + (ps-qr) + as + pd - br - cq$
 $= as + pd + ds + ap = (a+d)(p+s) = 1 \neq 0$ (: ③, ⑤)

よって、X は逆行列 X^{-1} をもつから、4 の左から X^{-1} を掛けて

$$X^{-1}X(X-E) = X^{-1}O$$
 : $X-E=O$ より, $X=A+B=E$ (終)

2009 岡山大学 (理系)

--解答例--

3

- (1) 初項 x^2 , 公比 $\frac{1}{1+x^2-x^4}$ である無限等比級数の収束条件は
 - (i) x = 0 のとき、収束し和は 0
 - (ii) $x \neq 0$ のとき,

$$\left|\frac{1}{1+x^2-x^4}\right|<1\; \text{ is, } |x^4-x^2-1|>1 \quad \therefore x^4-x^2-1<-1,\; x^4-x^2-1>1$$

$$x^2(x+1)(x-1) < 0$$
 から, $-1 < x < 1$ $(x \neq 0)$ また, $x^4 - x^2 - 2 = (x^2+1)(x+\sqrt{2})(x-\sqrt{2}) > 0$ から, $x < -\sqrt{2}$, $\sqrt{2} < x$ 以上より,求める x の値の範囲は

$$x < -\sqrt{2}, -1 < x < 1, \sqrt{2} < x$$
 (答)

(2) f(x) は $x \neq 0$ のとき

$$\begin{split} f(x) &= \frac{x^2}{1 - \frac{1}{1 + x^2 - x^4}} = \frac{x^2(1 + x^2 - x^4)}{x^2 - x^4} = \frac{x^4 - x^2 - 1}{x^2 - 1} \\ \text{ここで,} \quad h(x) &= f\left(\sqrt{|x|}\right) - |x| \\ &= \frac{x^2 - |x| - 1}{|x| - 1} - |x| = \frac{(x^2 - |x| - 1) - (x^2 - |x|)}{|x| - 1} = \frac{1}{1 - |x|} \\ \text{よって,} \quad \lim_{x \to 0} h(x) &= \mathbf{1} \text{ (答)} \end{split}$$

(3)

$$\lim_{x \to 0} \frac{h(x) - 1}{x} = \lim_{x \to 0} \frac{1}{x} \left(\frac{1}{1 - |x|} - 1 \right) = \lim_{x \to 0} \frac{|x|}{x(1 - |x|)}$$

$$\lim_{x \to +0} \frac{h(x) - 1}{x} = \lim_{x \to +0} \frac{x}{x(1 - x)} = 1$$

$$\lim_{x \to -0} \frac{h(x) - 1}{x} = \lim_{x \to -0} \frac{-x}{x(1 + x)} = -1$$
よって、
$$\lim_{x \to 0} \frac{h(x) - a}{x}$$
 は存在しない. (答)

2009 岡山大学 (理系)

--解答例--

4

(1)
$f(x) = 2(x-1)e^{1-\frac{1}{2}x}$ とおいて
$f(x) = 2(x-1)e^{1-\frac{1}{2}x}$ とおいて $f'(x) = 2e^{1-\frac{1}{2}x} + 2(x-1)\left(-\frac{1}{2}\right)e^{1-\frac{1}{2}x}$
$= (3-x)e^{1-\frac{1}{2}x}$
$f''(x) = -e^{1-\frac{1}{2}x} + (3-x)\left(-\frac{1}{2}\right)e^{1-\frac{1}{2}x}$
$= \frac{1}{2}(x-5)e^{1-\frac{1}{2}x}$

x		3		5	
f'(x)	+	0	_		_
f" (x)	_		_	0	+
f(x)	~		7		\ <u></u>

 $\lim_{x\to -\infty} f(x) = -\infty, \ \lim_{x\to \infty} f(x) = 0$ より、グラフは右図のようになる.

点 (t, f(t)) における接線の方程式は

$$y - 2(t-1)e^{1-\frac{1}{2}t} = (3-t)e^{1-\frac{1}{2}t}(x-t)$$

原点を通ることから,

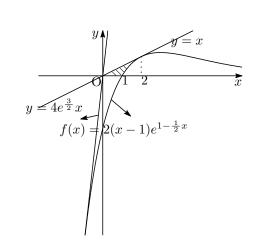
$$-2(t-1)e^{1-\frac{1}{2}t} = -t(3-t)e^{1-\frac{1}{2}t}$$

$$t^2-t-2=0$$
 より, $(t+1)(t-2)=0$ であるから, $t=-1,\ 2$

このとき, $a=4e^{\frac{3}{2}}, 1$ であるから, C と ℓ が 2 個の共有

点をもつ条件はグラフにより

$$0 < a < 1, \quad 4e^{\frac{3}{2}} < a$$
 (答)



(2) a=1 のとき、接点の座標は (2,2) で、求める図形の面積 S は

$$S = \frac{1}{2} \times 2^2 - \int_1^2 2(x-1)e^{1-\frac{1}{2}x} dx$$

$$= 2 - 2\left[-2(x-1)e^{1-\frac{1}{2}x} \right]_1^2 - 4\int_1^2 e^{1-\frac{1}{2}x} dx$$

$$= 2 + 4 - 4\left[-2e^{1-\frac{1}{2}x} \right]_1^2$$

$$= 6 + 8(1 - \sqrt{e}) = \mathbf{14} - 8\sqrt{e} \text{ (\Xi)}$$

2008 岡山大学 (理系)

1

n を 3 以上の整数とする。A,B,C の 3 人がそれぞれ 1 から n までの整数を 1 つずつ選ぶ。どの数を選ぶ確率も等しく $\frac{1}{n}$ とする。A,B,C が選んだ数を順に a, b, c とするとき,次の問いに答えよ。

- (1) 3 人のうち、少なくとも 1 人が n を選ぶ確率を求めよ.
- (2) aとbが等しくなる確率を求めよ.
- (3) 2人が同じ数,他の1人が異なる数を選ぶ確率を求めよ.
- (4) a < b < c となる確率を求めよ.

2

次の各問いに答えよ.

(1) p, q を 0 でない定数とする.

$$a_1 = 1$$
, $a_{n+1} = p a_n + \frac{q-p}{2} q^{n-1}$

で定められる数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ.

(2)

$$b_n = (-1)^{n-1} \log \frac{n+2}{n} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

で定められる数列 $\{b_n\}$ に対して

$$S_n = b_1 + b_2 + \cdots + b_n$$

とする. このとき, $\lim_{n \to \infty} S_n$ を求めよ.

2008 岡山大学 (理系)

3

a を 0 以上の実数, n を正の整数とするとき, 次の問いに答えよ

(1)

$$\int_0^a e^{a-x} \left(1 + \frac{x}{n} \right)^n dx = \int_0^a e^{a-x} \left(1 + \frac{x}{n} \right)^{n-1} dx + e^a - \left(1 + \frac{a}{n} \right)^n$$

が成り立つことを示せ.

$$(2) \ \left(1+\frac{a}{n}\right)^{n-1} \leqq \left(1+\frac{a}{n}\right)^n \leqq e^a \ \text{が成り立つことを示せ}.$$

$$(3) \ e^a - \left(1 + \frac{a}{n}\right)^n \leqq \frac{a^2 e^a}{2n} \ \text{が成り立つことを示せ}.$$

4 xy 平面の曲線

$$C: x = \frac{\cos t}{1 - \sin t}, \quad y = \frac{\sin t}{1 - \cos t} \quad \left(0 < t < \frac{\pi}{2}\right)$$

について,次の問いに答えよ.

- $(1) \ 曲線 \ C \ \bot \mathcal{O} \ t = \theta \ \mathtt{C} \ \mathtt{T} \ \mathtt{C} \ \mathtt{T} \ \mathtt{C} \ \mathtt{D} \ \mathtt{E} \ \mathtt{T} \ \mathtt{D} \ \mathtt{E} \ \mathtt{D} \ \mathtt{D} \ \mathtt{E} \ \mathtt{D} \ \mathtt{D} \ \mathtt{E} \ \mathtt{D} \ \mathtt$
- (2) $\alpha = \sin \theta + \cos \theta$ とおく. 点 $P\left(\frac{\cos \theta}{1 \sin \theta}, \frac{\sin \theta}{1 \cos \theta}\right)$ における C の接線 ℓ と x 軸,y 軸で囲まれた 三角形の面積 S を α の式で表せ.
- (3) $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のとき,(2) で求めた面積 S の値の範囲を求めよ.

2008 岡山大学 (理系)

—解答例—

1

(1) 3 人とも n 以外を選ぶ確率は $\frac{(n-1)^3}{n^3}$ であるから、少なくとも 1 人が n を選ぶ確率は、余事象の関係から

$$1 - \frac{(n-1)^3}{n^3} = \frac{n^3 - (n-1)^3}{n^3} = \frac{3n^2 - 3n + 1}{n^3}$$
 (答)

(2) a=b なる場合は n 通りあり、それぞれに対して c は n 通りある。よって、求める確率は

$$\frac{n \times n}{n^3} = \frac{1}{n}$$
 (答)

(3) 3 人のうちのどの 2 人が同じ数 \cdots $_3$ $\mathbf{C}_2 \times n = 3n$ 通り,他の 1 人が異なる数を選ぶ方法は (n-1) 通り であるから,求める確率は

$$\frac{3n\times(n-1)}{n^3}=\frac{3(n-1)}{n^2}$$
 (答)

(4) a < b < c となる場合の数は、 ${}_{n}C_{3} = \frac{n(n-1)(n-2)}{3!}$ 通りであるから、求める確率は

$$\frac{n(n-1)(n-2)}{6} = \frac{(n-1)(n-2)}{6n^2}$$
(答)

2008 岡山大学 (理系)

--解答例--

2

(1)
$$a_{n+1} = pa_n + \frac{1}{2}q^n - \frac{1}{2}pq^{n-1}$$
を変形して

$$a_{n+1} - \frac{1}{2}q^n = p\left(a_n - \frac{1}{2}q^{n-1}\right)$$

であるから,

$$a_n - \frac{1}{2}q^{n-1} = p^{n-1}\left(a_1 - \frac{1}{2}q^0\right) = p^{n-1}\left(1 - \frac{1}{2}\right)$$

$$\therefore a_n - \frac{1}{2}q^{n-1} = \frac{1}{2}p^{n-1}$$

よって,

$$a_n = \frac{p^{n-1} + q^{n-1}}{2}$$
 (答)

(2)

(i)
$$n=2m$$
 のとき,

$$S_{2m} = b_1 + b_3 + \dots + b_{2m-1} + \{b_2 + b_4 + \dots + b_{2m}\}$$

$$= \log \frac{3}{1} + \log \frac{5}{3} + \dots + \log \frac{2m+1}{2m-1} - \left\{\log \frac{4}{2} + \log \frac{6}{4} + \dots + \frac{2m+2}{2m}\right\}$$

$$= (\log 3 - \log 1) + (\log 5 - \log 3) + \dots + \log(2m+1) - \log(2m-1)$$

$$- \{(\log 4 - \log 2) + (\log 6 - \log 4) + \dots + (\log(2m+2) - \log 2m)\}$$

$$= \log 2 + \log(2m+1) - \log(2m+2) = \log 2 + \log \frac{2m+1}{2m+2}$$

(ii)
$$n = 2m + 1 \mathcal{O} \ \mathcal{E}, \ S_{2m+1} = S_{2m} + b_{2m+1} = \log 2 + \log \frac{2m+1}{2m+2} + \log \frac{2m+3}{2m+1}$$

 $n \to \infty \mathcal{O} \ \mathcal{E}, \ m \to \infty \mathcal{O} \ \mathcal{E}, \ m \to \infty \mathcal{O} \ \mathcal{E},$
 $\log \frac{2m+1}{2m+2} = \log \frac{2+\frac{1}{m}}{2+\frac{2}{m}} \to 0, \quad \sharp \ \mathcal{E}, \ \log \frac{2m+3}{2m+1} \to 0$

$$S_{2m} \rightarrow \log 2$$

また、同様にして、

$$S_{2m+1} \to \log 2$$

$$\therefore \lim_{n \to \infty} S_n = \log 2$$
 (答)

2008 岡山大学 (理系)

--解答例--

3

(1)

$$\int_{0}^{a} e^{a-x} \left(1 + \frac{x}{n}\right)^{n} dx = \left[-\left(e^{a-x}\right) \left(1 + \frac{x}{n}\right)^{n}\right]_{0}^{a} + \int_{0}^{a} e^{a-x} n \cdot \left(1 + \frac{x}{n}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{n} dx$$

$$= -\left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n} + e^{a} + \int_{0}^{a} e^{a-x} \left(1 + \frac{x}{n}\right)^{n-1} dx$$

$$\therefore \int_{0}^{a} e^{a-x} \left(1 + \frac{x}{n}\right)^{n} dx = \int_{0}^{a} e^{a-x} \left(1 + \frac{x}{n}\right)^{n-1} dx + e^{a} - \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n} \quad (8)$$

(2)
$$\left(1 + \frac{a}{n}\right)^n - \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n-1} = \frac{a}{n} \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n-1} \ge 0 \quad (\because a \ge 0, \ n \ge 1)$$

$$e^{a} - \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n} = \int_{0}^{a} e^{a-x} \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n} dx - \int_{0}^{a} e^{a-x} \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n-1} dx$$

$$= \int_{0}^{a} \frac{x}{n} e^{a-x} \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n-1} dx \ge 0 \quad \left(\because \frac{x}{n} \ge 0, \ e^{a-x} \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n-1} \ge 0\right)$$

$$\therefore \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n-1} \le \left(1 + \frac{a}{n}\right)^{n} \le e^{a} \text{ (8)}$$

(3)

2008 岡山大学 (理系)

—解答例—

4

(1)

$$t = \theta$$
 のとき、 $\left[\frac{dy}{dx}\right]_{t=\theta} = -\frac{1-\sin\theta}{1-\cos\theta}$ であるから、 ℓ の方程式は $y - \frac{\sin\theta}{1-\cos\theta} = -\frac{1-\sin\theta}{1-\cos\theta} \left(x - \frac{\cos\theta}{1-\sin\theta}\right)$ ∴ $y = -\frac{1-\sin\theta}{1-\cos\theta}x + \frac{\sin\theta+\cos\theta}{1-\cos\theta}$ (答)

$$(2)$$
 x 軸, y 軸との交点をそれぞれ, A, B とおくと, $x=0,\ y=0$ とおいて $A\left(\frac{\sin \theta}{1-\sin \theta},\ 0\right)$, $B\left(0,\ \frac{\sin \theta+\cos \theta}{1-\cos \theta}\right)$ となる.

$$S = \frac{1}{2} \cdot \frac{(\sin \theta + \cos \theta)^2}{(1 - \sin \theta)(1 - \cos \theta)} = \frac{\alpha^2}{2 - 2(\sin \theta + \cos \theta) + 2\sin \theta \cos \theta}$$

 $2\sin\theta\cos\theta = \alpha^2 - 1$ であるから

$$S = \frac{\alpha^2}{1 - 2\alpha + \alpha^2} = \frac{\alpha^2}{(1 - \alpha)^2}$$
 (答)

$$\begin{split} &\alpha=\sqrt{2}\sin\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)\text{ また, } 0<\theta<\frac{\pi}{2}\text{ から, } \frac{\pi}{4}<\theta+\frac{\pi}{4}<\frac{3}{4}\pi\text{ したがって, } 1<\alpha\leqq\sqrt{2}\\ &\frac{dS}{d\alpha}=\frac{2a(\alpha-1)^2-2(\alpha-1)\alpha^2}{(\alpha-1)^4}=-\frac{2\alpha}{(\alpha-1)^3}\text{ から, } 増減表を書いて\\ &1<\alpha\leqq\sqrt{2}\text{ のとき,} \end{split}$$

S は単調減少であり、 $\lim_{\alpha \to 1+0} S = \infty$ である.

$$\alpha = \sqrt{2}$$
 のとぎ, $S = \frac{2}{(\sqrt{2} - 1)^2} = 6 + 4\sqrt{2}$

 $S \geq 6 + 4\sqrt{2}$ (答)

したがって、求めるSの値の範囲は

$$\frac{2}{(\sqrt{2}-1)^2} = 6 + 4\sqrt{2}$$
 の値の範囲は
$$\frac{dS}{d\alpha} - S$$

2007 岡山大学 (理系)

1

A,B,C の 3 人のうち 2 人が,1 から 13 までの数字が書かれた 13 枚のカードの束から順に 1 枚ずつカードを引き,大きい数のカードを引いた者を勝者とするルールで代わる代わる対戦する.

ただし、最初に $A \ge B$ が対戦し、その後は、直前の対戦の勝者と休んでいた者が対戦を行う。また、カードを引く順番は最初は A から、その後は直前の対戦の勝者からとする。なお、対戦に先立って毎回カードの束をシャッフルし、引いたカードは対戦後直ちに元の束に戻すものとする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 最初の対戦で A が勝つ確率を求めよ。
- (2) 4回目の対戦に A が出場する確率を求めよ。
- (3) 5回の対戦を行うとき、Aが3人のなかで一番先に連勝を達成する確率を求めよ。

2

 $f(x) = x^3 - 3a^2x - b$ とする。ただし、a, b は実数の定数であり、 $a \ge 0$ とする。次の問いに答えよ。

- (1) 3 次方程式 f(x)=0 のすべての解が区間 $-1 \le x \le 1$ に含まれる実数解であるための条件を、a,b に関する不等式で表せ。
- (2) 座標平面上で、(1) で求めた条件を満たす点 (a, b) の集合が表す領域を D とする。D の概形を描き、その面積を求めよ。

2007 岡山大学(理系)

3

」 方程式 $y=x^2$ で与えられる座標平面上の放物線を C とする。次の問いに答えよ。

- (1) $A=\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ とする。C 上の点 P をどのように選んでも,P を行列 A で表される移動によって移した点がまた C 上にあるとき,A の成分 $a,\ b,\ c,\ d$ がみたす条件を求めよ。
- (2) 2 点 $Q(-1,\ 1)$, $Q'(1,\ -1)$ をとり,Q' を通り,線分 QQ' と直交する直線を ℓ とする。C 上の点 P を行列 $B=\begin{pmatrix} 1 & -\alpha \\ 1 & \alpha \end{pmatrix}$ で表される移動によって移した点を P' とするとき,

P' から Q までの距離と P' から ℓ までの距離が等しくなるような α の値を求めよ。

4

一 関数 $f(x) = x \sin \frac{1}{x} (x > 0)$ について,次の問いに答えよ。

- (1) $x \ge \frac{3}{4\pi}$ ならば, f'(x) > 0 であることを示せ。
- (2) $b \ge a > 0$, $b \ge \frac{2}{\pi}$ のとき,

$$\int_{a}^{b} f(x) dx \le (b - a)f(b) \le b - a$$

が成り立つことを示せ。

2007 岡山大学 (理系)

—解答例—

1

(1) すべての場合は、 13×12 通りで、A が勝つのは $_{13}\mathrm{C}_2$ 通り、よって求める確率は、

$$\frac{{}_{13}\mathrm{C}_2}{13\cdot 12} = \frac{1}{2} \quad (答)$$

(2) Aが4回戦に出場するのは次の場合がある。

(○··· 勝, △··· 休み, ×··· 負) とする。

1	2	3	
0	0	0	$\left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{1}{8}$
0	×	Δ	$\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} \times 1 = \frac{1}{4}$
×	Δ	0	$\frac{1}{2} \times 1 \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

求める確率は、
$$\frac{1}{8} + \frac{1}{4} + \frac{1}{4} = \frac{5}{8}$$
 (答)

(3) A が最初に連勝(2連勝)する場合は次の通りである。()内は勝者.

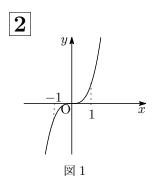
1	2	3	4	5	
0	0				$\left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$
0	× (C)	△ (B)	0	0	$(\frac{1}{2})^2 \times (\frac{1}{2})^3 = \frac{1}{32}$
× (B)	△ (C)	0	0		$\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} \times \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{16}$

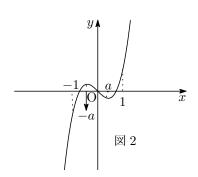
よって求める確率は

$$\frac{1}{4} + \frac{1}{32} + \frac{1}{16} = \frac{11}{32}$$
 (答)

2007 岡山大学 (理系)

—解答例—





(1) $f'(x) = 3x^2 - 3a^2$ であるから,

(i)
$$a=0$$
 のとき, $f'(x)=3x^2 \ge 0$: $f(x)$ は単調増加.(図 1) 解が $-1 \le x \le 1$ を満たすための条件は, $f(-1) \le 0$, $f(1) \ge 0$

$$f = 1 \leq x \leq 1$$
 飞阀 $C \in \mathcal{F}(X)$ 大什么, $f(-1) \leq 0$, $f(1) \leq 0$

$$\therefore -1 + 3a^2 - b \le 0, \quad 1 - 3a^2 - b \ge 0 \cdots \text{ }$$

(ii)
$$a > 0$$
 $\mathcal{O} \succeq 3$, $f'(x) = 3(x+a)(x-a)$ $\mathcal{O} = 3(x+a)(x-a)$ $\mathcal{$

条件より、図2のようになることであり、

$$2a^3 - b \ge 0, -2a^3 - b \le 0, f(-1) \le 0, f(1) \ge 0$$
 ליס, $0 < a \le 1 \cdots 2$

①,② から, 求める条件は

$$b \ge 3a^2 - 1, \ b \le -3a^2 + 1, \ b \le 2a^3, \ b \ge -2a^3, \ 0 \le a \le 1$$
 (答)

(2) 求める点 (a, b) の範囲は図の斜線部分で境界を

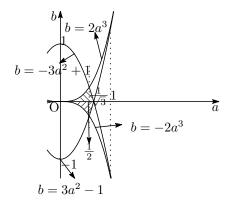
含む。図の対称性から、求める面積
$$S$$
 は

$$S = 2 \int_0^{\frac{1}{2}} 2a^3 da + 2 \int_{\frac{1}{2}}^{\frac{1}{\sqrt{3}}} (-3a^2 + 1) da$$

$$= \left[a^4 \right]_0^{\frac{1}{2}} + \left[2a - 2a^3 \right]_{\frac{1}{2}}^{\frac{1}{\sqrt{3}}}$$

$$= \frac{1}{16} + \left(\frac{2}{\sqrt{3}} - \frac{2}{3\sqrt{3}} \right) - \left(1 - \frac{1}{4} \right)$$

$$= \frac{4\sqrt{3}}{9} - \frac{11}{16} \quad (\stackrel{\triangle}{\cong})$$



2007 岡山大学 (理系)

--解答例--

3

(1)

点 P の座標を,
$$(t, t^2)$$
 とおく。 $\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} t \\ t^2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} at + bt^2 \\ ct + dt^2 \end{pmatrix}$ 条件より, これが曲線 C 上の点であるから,

$$ct+dt^2=(at+bt^2)^2\Longleftrightarrow ct+dt^2=a^2t^2+2abt^3+b^2t^4$$
 t についての恒等式であるから $c=0,\quad d=a^2,\quad 0=2ab,\quad 0=b$

よって求める条件は, $b=c=0,d=a^2$ (答)

(2)
$$P(t, t^2)$$
 に対して、 $\begin{pmatrix} 1 & -\alpha \\ 1 & \alpha \end{pmatrix} \begin{pmatrix} t \\ t^2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} t - \alpha t^2 \\ t + \alpha t^2 \end{pmatrix}$ ∴ $P'(t - \alpha t^2, t + \alpha t^2)$ $\overrightarrow{QQ'} = (2, -2) = 2(1, -1)$ であるから、 ℓ の式は $(x - 1) - (y + 1) = 0$ ∴ ℓ : $x - y - 2 = 0$ 条件より

$$\sqrt{(t - \alpha t^2 + 1)^2 + (t + \alpha t^2 - 1)^2} = \frac{|(t - \alpha t^2) - (t + \alpha t^2) - 2|}{\sqrt{2}}$$

$$\therefore \sqrt{2(t^2 + (\alpha t^2 - 1)^2)} = \sqrt{2}|\alpha t^2 + 1|$$

$$t^2 + \alpha^2 t^4 - 2\alpha t^2 + 1 = \alpha^2 t^4 + 2\alpha t^2 + 1$$

$$\therefore t^2(1-4\alpha) = 0 \iff t = 0, \ \alpha = \frac{1}{4}$$

したがって、求める α の値は

(答)
$$\left\{ egin{array}{ll} (\mathrm{i}) & t=0 \ \mathfrak{O} \ \mathcal{E} \ \mathbf{5}, oldsymbol{lpha} \ \mathrm{id} \ \mathrm{t} \ \mathrm{$$

2007 岡山大学 (理系)

--解答例--

4

証明

増減表を考えて

t	0		π		$\frac{4}{3}\pi$	
g'(t)		+	0	_		_
g(t)		7	π	>	$-\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{2}{3}\pi$	ここで, $\lim_{t\to +0}g(t)=0, -\frac{\sqrt{3}}{2}+\frac{2}{3}\pi>0$ であるから,
0 < t \underset	$\leq \frac{4}{3}$	$\frac{1}{3}\pi$	のと	き, g	g(t) > 0 :.	$f'(x) > 0 \left(x \ge \frac{4}{3\pi} \right)$ (%)

(2) a < b のとき, $h(b) = \int_a^b f(x) dx$ とおく,閉区間 [a, b] で連続,開区間 (a, b) で微分可能であるから,

$$\int_{a}^{b} f(x)dx = (b-a)h'(c) = (b-a)f(c)$$

となる c(a < c < b) が存在する.

(1) $b \ge \frac{2}{\pi} > \frac{4}{3\pi}$ であるから, (1) より, f(x) は単調増加.

$$\therefore f(a) \le f(c) \le f(b) \ \ \sharp \ \ \emptyset, \ \int_a^b f(x) dx \le (b-a)f(b)$$

$$b-a-(b-a)f(b)=(b-a)\left\{1-f(b)\right\}$$
 において、 $1-f(b)=1-b\sin\frac{1}{b}\cdots(*)$ $\frac{1}{b}=u$ とおくと、 $b\geqq\frac{2}{\pi}$ より、 $0< u\leqq\frac{\pi}{2}$ (*) は、 $1-\frac{1}{u}\sin u=\frac{u-\sin u}{u}$ $I(u)=u-\sin u$ とおいて、 $I'(u)=1-\cos u>0$ ∴ $I(u)$ は単調増加.

a = b のときは、すべての辺が 0 となり、明らかに成立.

$$\therefore \int_a^b f(x) \, dx \le (b-a)f(b) \le b-a \quad (\aleph)$$

2006 岡山大学 (理系)

1

座標平面上において、曲線 C 上に置ける接線に垂直で P を通る直線を、P における C の法線とよぶ.双曲線 $C_1:y=\frac{1}{x}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) 点 $P\left(p, \frac{1}{p}\right)$ における C_1 の法線の方程式を求めよ. ただし, $p \neq 0$ とする.
- (2) 点 $\mathbf{Q}(q,-q)$ を中心とする円 C_2 と C_1 が,ちょうど 2 個の共有点をもつとき,円 C_2 の半径 r を q の式で表せ.

2

次の問いに答えよ.

- (1) 関数 $f(x) = \frac{\log(x+1)}{x}$ の導関数 f'(x) を求めよ. ただし、対数は自然対数とする.
- (2) a, b は b > a > 0 を満たすとする. このとき,次の不等式を証明せよ.

$$(a+1)^b > (b+1)^a$$

2006 岡山大学(理系)

3

行列 $A_n=\begin{pmatrix} a_n & b_n \\ c_n & d_n \end{pmatrix}$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$ は,次の関係式で定まるものとする.

$$A_1 = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 3 \end{pmatrix}, \quad A_n = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 2 + (-1)^n \end{pmatrix} A_{n-1} \quad (n = 2, 3, 4, \dots)$$

このとき,次の問いに答えよ.

- (1) b3 の値を求めよ.
- (2) b_{2n+1} $(n=1, 2, 3, \cdots)$ を n の式で表せ.
- (3) $\lim_{n \to \infty} \frac{b_{2n+1}}{b_{2n}}$ の値を求めよ.

4

座標平面において、原点 $O(0,\ 0)$ を中心とする半径 1 の円を C_1 とし、点 $P(\cos\theta,\ \sin\theta)$ と点 $Q(\cos3\theta,\ \sin3\theta)$ における接線をそれぞれ $\ell_1,\ \ell_2$ とする。ただし、 $\frac{\pi}{6} \le \theta \le \frac{\pi}{4}$ である。 ℓ_1 と ℓ_2 の交点を $R(\alpha,\ \beta)$ とするとき、次の問いに答えよ。

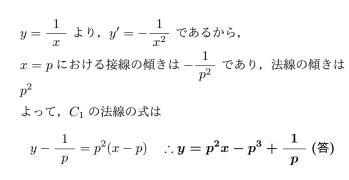
- (1) 点 R の座標 α , β を θ の式で表せ.
- (2) θ を $\frac{\pi}{6} \le \theta \le \frac{\pi}{4}$ の範囲で動かして得られる点 R の軌跡を C_2 とする. このとき,直線 $y=\sqrt{3}x$ と曲線 C_2 と y 軸とで囲まれる部分の面積を求めよ.

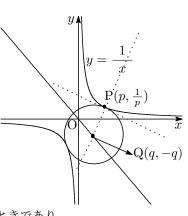
2006 岡山大学 (理系)

--解答例--

1

(1)





(2) C_2 , C_1 が 2 個の共有点をもつのは、円と双曲線が接するときであり 点 P における法線が円の中心 Q を通ることから

$$-q = p^2q - p^3 + \frac{1}{p} \cdot \dots \cdot \textcircled{1}$$

また

③ から,
$$p^2 - qp - 1 = 0$$
 より, $p = \frac{q \pm \sqrt{q^2 + 4}}{2} \cdots$ ⑤

④ から,
$$r^2 = p^2 + \frac{1}{p^2} = \left(p + \frac{1}{p}\right)^2 - 2$$

ここで, ⑤ から, $p + \frac{1}{p} = \frac{q \pm \sqrt{q^2 + 4}}{2} + \frac{2}{q \pm \sqrt{q^2 + 4}}$

$$= \frac{q \pm \sqrt{q^2 + 4}}{2} - \frac{q \mp \sqrt{q^2 + 4}}{2} = \pm \sqrt{q^2 + 4}$$

従って、
$$r^2=q^2+4-2=q^2+2$$
 $r>0$ より, $r=\sqrt{q^2+2}$ (答)

2006 岡山大学 (理系)

—解答例—

2

(1)

$$f'(x) = \frac{\frac{x}{x+1} - \log(x+1)}{x^2}$$
$$= \frac{x - (x+1)\log(x+1)}{x^2(x+1)} \cdots (5)$$

(2) $x \neq 0$, また真数条件から、x+1>0 であるから

$$(分母) = x^2(x+1) > 0$$

である. $g(x) = x - (x+1)\log(x+1)$ とおいて, g(x) の符号を調べる.

$$g'(x) = 1 - \log(x+1) - 1$$

= $-\log(x+1) \cdot \cdot \cdot \cdot \cap$

① より、g'(x) = 0 とおいて、x = 0. 増減表をかいて

x	-1		0	
g'(x)		+	0	_
g(x)		7	0	V

 $\lim_{x \to \infty} g(x) = 0$ であるから, $g(x) < 0 \ (-1 < x < 0, \ 0 < x のとき)であり$

$$\therefore f'(x) = \begin{cases} <0 & (-1 < x < 0) \\ <0 & (x > 0) \end{cases}$$

よって, f(x) は x>0 において減少関数である. したがって

$$b>a>0$$
 のとき $f(b)< f(a) \Longleftrightarrow \frac{-\log(b+1)}{b} < \frac{-\log(a+1)}{a}$

$$\therefore a \log(b+1) < b \log(a+1) \Longleftrightarrow \log(b+1)^a < \log(a+1)^b$$

底は1より大きいから

$$(a+1)^b > (b+1)^a \cdots (8)$$

2006 岡山大学 (理系)

--解答例--

3

$$(1) \ A_2 = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 11 \\ 0 & 9 \end{pmatrix} \ A_3 = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 11 \\ 0 & 9 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 38 \\ 0 & 9 \end{pmatrix} \ \therefore \mathbf{b_3} = \mathbf{38} \cdots (2)$$

$$(2) \ A_{2n+1} = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} A_{2n} = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} A_{2n-1} = \begin{pmatrix} 1 & 12 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_{2n-1} & b_{2n-1} \\ c_{2n-1} & d_{2n-1} \end{pmatrix} \ \ \sharp \ \ \emptyset$$

$$\begin{cases} b_{2n+1} &= b_{2n-1} + 12d_{2n-1} \cdots \textcircled{1} \\ d_{2n+1} &= 3d_{2n-1} & \cdots \textcircled{2} \end{cases}$$

② より、 $\{d_{2n-1}\}$ は、初項 $d_1=3$ 、公比3の等比数列であり

$$d_{2n-1} = 3 \cdot 3^{n-1} = 3^n$$

であるから、① より、 $b_{2n+1} = b_{2n-1} + 12 \cdot 3^n \cdots 3$

③ より,

$$b_{2n+1} = 6 \cdot 3^{n+1} - 16 \cdots$$
(答)

$$\lim_{n\to\infty} \frac{b_{2n+1}}{b_{2n}} = \lim_{n\to\infty} \frac{2 \cdot 3^{n+2} - 16}{3^{n+2} - 16} = \lim_{n\to\infty} \frac{2 - \frac{16}{3^{n+2}}}{1 - \frac{16}{3^{n+2}}} = \mathbf{2} \cdots (5)$$

2006 岡山大学 (理系)

--解答例--

4

(1) P, Q における接線の方程式は

$$\begin{cases} x\cos\theta + y\sin\theta &= 1\cdots \text{\textcircled{1}} \\ x\cos3\theta + y\sin3\theta &= 1\cdots \text{\textcircled{2}} \end{cases}$$

①、② より
$$\begin{pmatrix}
\cos\theta & \sin\theta \\
\cos 3\theta & \sin 3\theta
\end{pmatrix}
\begin{pmatrix}
x \\
y
\end{pmatrix} = \begin{pmatrix}
1 \\
1
\end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix}
\cos\theta & \sin\theta \\
\cos 3\theta & \sin 3\theta
\end{pmatrix}$$
において
$$\Delta = \cos\theta \sin 3\theta - \sin\theta \cos 3\theta = \sin 2\theta$$

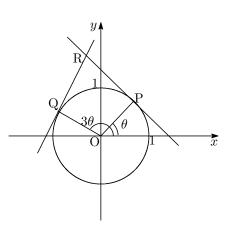
$$\frac{\pi}{6} \le \theta \le \frac{\pi}{4} \quad \xi \quad \theta, \quad \sin 2\theta > 0$$

$$\begin{pmatrix}
x \\
y
\end{pmatrix} = \frac{1}{\sin 2\theta} \begin{pmatrix}
\sin 3\theta & -\sin \theta \\
-\cos 3\theta & \cos \theta
\end{pmatrix} \begin{pmatrix}
1 \\
1
\end{pmatrix}$$

$$x = \frac{\sin 3\theta - \sin \theta}{\sin 2\theta} = \frac{2\sin \theta (1 - 2\sin^2 \theta)}{2\sin \theta \cos \theta} = \frac{\cos 2\theta}{\cos \theta}$$

$$y = \frac{-\cos 3\theta + \cos \theta}{\sin 2\theta} = \frac{4\cos \theta (1 - \cos^2 \theta)}{2\sin \theta \cos \theta} = 2\sin \theta$$

$$\alpha = \frac{\cos 2\theta}{\cos \theta}, \quad \beta = 2\sin \theta \cdots (答)$$



(2) $x = \frac{\cos 2\theta}{\cos \theta}$, $y = 2\sin \theta \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ $							
$dx = -2\sin 2\theta \cos \theta + \sin \theta \cos 2\theta$	2θ						
$\frac{d\theta}{d\theta} \equiv \frac{\cos^2 \theta}{\cos^2 \theta}$							
$-4\sin\theta\cos^2\theta + (2\cos^2\theta - 1)\cos^2\theta$	$\cos \theta$						
$-{\cos \theta}$							
$-\sin\theta(2\cos^2\theta+1)$							
$=\frac{\cos^2\theta}{\cos^2\theta}$							
$\frac{dy}{d\theta} = 2\cos\theta$							

θ	$\frac{\pi}{6}$		$\frac{\pi}{4}$
$\frac{dx}{d\theta}$		_	
x	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	7	0
$\frac{dy}{d\theta}$		+	
y	1	7	$\sqrt{2}$

